町章 中央に黒埼の「黒」を、外側には平仮名で「さき」を円形で囲い、明治34年の五ヶ村合併に重きを置き町民相互が円満に、一致団結し、健康で調和のとれた町の発展を表徴したものです。昭和27年に制定、48年の町制施行後も、町章として制定。

バンクーバー市役所前

第3回町民海外派遣研修報告会

これからの町づくりは行政側だけで行うものでなく、住民の皆さんと共に行う必要があります。

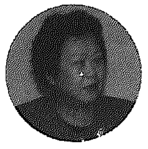
町ではこれからの町づくりを担う町民の皆さんに国際的な視野を身につけ、豊かな経験と知識をいかして、よりよい町づくりの一員として、行政に参加していただこうと今年も町民海外派遣研修を実施いたしました。

今回の研修内容は、「産業振興」と「成人教育」をテーマにアメリカとカナダで研修いたしました。

産業振興については、10月21日、商店街の活性化にとりくんだ米国ロサンゼルスのジャパニーズビレッジプラザで現地商店街の代表の方々から説明を受けたあと商店街を視察研修いたしました。

また、カナダの成人教育については、10月24日、バンクーバーの州立ランガラカレッジにおいて成人学習の主任教授であるシェリー先生を始め各担当の先生から説明を受け、質疑応答のあと施設の見学を行うなどして8日間の研修を終えて10月27日、帰国いたしました。

12月8日に研修の報告会が行われましたので、その内容を本紙で紹介いたします。



梅津　フサさん（寺地本村）

広報でバンクーバーのコミュニティカレッジのことを見て興味を持ち、参加しました。たくさんの木々に囲まれ、大学のキャンパスを思わせる素晴らしい環境で若い人も、熟年の人も楽しそうな雰囲気でした。また、大都市ロサンゼルスの徹底した禁煙対策や環境保護には驚きでした。黒埼町でもせめて空き缶、たばこのポイ捨てのない町づくりを心がけてほしいと思います。

小林　雄三さん（上山田第二）

ロサンゼルスの街は分散型であり、交通ラッシュ解消のため労働時間開始にも配慮があること、また、バンクーバーの非常に多い緑はこれからの町づくりを考えるうえで参考になる点が多くありました。リトル東京では、時代を生きてきた力強さを感じました。限られた時間でしたが、素晴らしい出会いと触れ合いが強く心に残り、楽しい思い出ができたことを感謝します。

白野　隆久さん（中学通り）

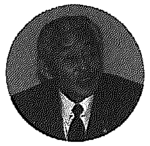
地球市民として異国の文化を学ぶことは大切だと思うので、姉妹都市等として研修地との末永い交流を図り、お互いの町の物産展やホームステイ、児童の絵画交換などを実施するのも良いと思います。今回の研修に参加するに当たり、勤務先の理解と協力に感謝しています。また、勤務先の理解が得られやすい環境づくりについて、町当局のいっそうの努力をお願いします。

佐野　房雄さん（善久中）

ロサンゼルスではリトル東京を視察しました。ビジネス街、ショッピング街、日系人の老人ホーム等様々な機能がそろった街でした。現在は中国人や韓国人経営者が多くなっており、日系人経営者は大変なようでした。バンクーバーでは成人教育について研修しました。日本のそれとは随分違うと感じました。今後、心身の健康増進のため生涯学習に参加したいと思います。

田代　富夫さん（上山田第二）

ジャパニーズビレッジプラザは、リトル東京で最初に再開発された所で、大野の商店街の人達に見てほしい所だと思いました。日系人の心の故郷という感じでした。バンクーバーのコミュニティカレッジはニーズを調査し、短期間にプログラムの更新がされており、また、障害者や先住民について非常に配慮されているのが印象的でした。今回の研修に参加の機会を与えて頂き、ありがとうございました。

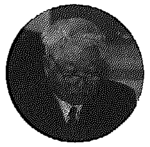


谷井　輝雄さん（諏訪町）

リトル東京はきれいな街でしたが、後継者不足から衰退しているようでした。カナダに1、2階が商店になっているホテルがありましたが、今後の黒埼町の町づくりの参考にしてほしいと思います。同じ町に住みながら顔も知らなかった方々と、8日間行動を共にし、共に学びながら友情、親睦を深めることができました。このような出会いを設定してくれた町当局に感謝いたします。

谷井　妗さん（諏訪町）

海外研修としては、こんなものなのかも知れませんが、時間に制約があって深く掘りさげた研修ではなく、何か物足りなさが残ったように思います。リトル東京をもっと専門的に語ってくれる人が欲しかったし、コミュニティカレッジでは、学生の皆さんと直に会って話を聞いてみたかったです。心が通じるようになった団員の皆様、そして町当局の関係者の方々に感謝とお礼を申し上げます。



森澤　國夫さん（興野二区）

カナダのコミュニティカレッジでは、社会の要請と自己の特性を求め、学ぶ学校の在り方が、日本の学校教育制度と本質を異にしているし、日本の学生は若い貴重な時間を意味なく、無駄にしていると感じました。若いときに外から見直すことは、大きな意義があると思うので、若い人達対象に内地、外地の研修留学等を行っていけば、これからの黒埼町に大きな実りがあると思います。

山際　忠さん（鳥原大明）

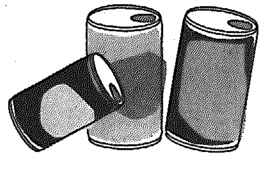
ジャパニーズビレッジにある、全米日系人博物館のパンフレットの「あらゆる世代、国籍、文化を越えて人と人とが理解し合うため架け橋として誕生しました。日系人とは何なのか……。この研究はあなた自身の再発見にもなるでしょう」という言葉にとても感激しました。ドンドン世界に出て、いろいろなものを見て、理解を深めることは大事な事だと思いました。

吉田　弘さん（寺地西団地）

リトル東京は思ったよりこぢんまりしていて、再開発が成功したと聞いていましたが、まだまだという印象でした。コミュニティカレッジは、奨学金制度やカウンセリング等が充実していて、いつでも、誰でも学ぶことができる環境が整っていて、素晴らしいと感じました。バンクーバーにいる友人を通して、黒埼町のために何かできればいいなと思います。

町民憲章（昭和58年2月11日制定）
一、育てよう　豊かな緑と恵みの町を
一、築こう　笑顔に満ちた明るい家庭を
一、広げよう　近所と町に思いやりの輪を
一、鍛えよう　働く心と丈夫な身体を
一、燈そう　学問文化に創造の灯を

鳥原子供環境クラブ
空き缶拾い及び環境調査報告



大野小学校5年
伊田　あゆみさん
（鳥原本村）

11月30日㈰に、環境クラブで、ゴミ拾いをしました。

まず、ふくろと、ゴミをはさむのをもって新幹線のガード下と、その周りを歩きました。それで、カン、ビンなどを拾いました。前回よりタバコのすいがらが、少なくなっていてうれしかったです。

これからは、大人も、子供も、ゴミのポイすてはやめましょう。

大野小学校6年
伊田　綾乃さん
（鳥原本村）

11月30日に、鳥原環境クラブで、新幹線のガード下でカン拾いをしました。

落ちていた物は、お菓子の袋、たばこの空き箱、マンガ本、それと落ちていてビックリした物は、コンピューター、子供用のイスなどです。ゴミは、大袋に10袋位たまりました。

ゴミを拾って思った事は、前回よりも、たばこのすいがらが少なかった事です。これからも、ゴミがどんどん少なくなったらなあと思います。